

令和3年度 第1回南北海道定住自立圏共生ビジョン
懇談会（書面開催）結果

1 書面開催期間 令和3年9月14日（火）から
令和3年9月27日（月）まで

2 書面協議結果

(1) 第2次南北海道定住自立圏共生ビジョン第3回変更（案）について

各委員からのご意見等およびこれらに対する事務局の回答は次のとおりです。

意見等	回答
<p>全体に関して</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、昨年に引き続き、あるいは昨年以上に新型コロナウイルス感染症の影響が可視化されたのではないかと感じる。 <p>来年以降、どのように指標が変化していくのかを注視し、数年後今次ビジョンが終了するときに、新型コロナウイルス感染症が圏域の将来像「安心と交流でつながる南北海道」にどのような影響を与えたのかを総括できると良いのではないかと感じる。</p>	<p>成果指標につきましては、現ビジョンを策定する際、ビジョン懇談会において検討を行い、パブリックコメントを経て決定しており、国の要綱においても、ビジョンの期間が満了する際は、成果指標等の達成状況を踏まえて次期のビジョンを策定するものと記載されていることから、現ビジョン最終年である令和5年度にビジョン全体を総括し、今後の方向性を検討したいと考えております。</p>
<p>P13</p> <p>【「4 圏域の概況」中、(4) 個別分野の概況】</p> <p>オ 地域国際化</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～外国人観光客や在住外国人 	<p>「環境を演出し」の文言につきましては、前ビジョン策定時に「外国人観光客に加え、在住外国人もストレス無く生活できるような環境づくり」を行う必要性を訴え、</p>

<p>が快適に過ごすことのできる環境を演出し、(中略)考えられます。」とあるが、「環境を演出し」とは具体的にどのようなことか。</p>	<p>それが圏域としてのコミュニケーション能力の向上，ひいては交流人口の拡大につながると結論づけ，用いられた文言となります。</p>
<p>P16 以降</p> <p>【 7 具体的取組内容と成果指標】</p> <p>【意見等】</p> <p>・記載されている事業費が変更(増額・減額)となっている部分については，関係機関との打合せや調整は済んでいるか。</p>	<p>記載の事業費につきましては，当該事業に対し事業費を有している圏域市町のR2年度までは決算額，R3年度は予算額を記載しており，市町として各事業に支出する額の記載となっております。</p> <p>R4年度以降につきましては，明確な増減が確定していない限りR3年度予算額と同額を記載しております。</p>
<p>P16</p> <p>【「7 具体的取組内容と成果指標」中，(1)生活機能の強化】</p> <p>ア 医療</p> <p>①初期救急医療体制の充実</p> <p>事業名：夜間急病センターの運営支援</p> <p>【意見等】</p> <p>・夜間急病センターの運営事業に対する事業費が2020年度に急増しているが，新型コロナウイルス感染症の影響によるものか。</p>	<p>夜間急病センターにつきましては，委託料，利用料金(診療)収入を主たる収入として函館市から指定を受けた指定管理者が運営しておりますが，新型コロナウイルス感染症の影響により利用者および利用料金(診療)収入が減少したため函館市と関係市町において収支補填金を支出したことによる一時的な増加となります。</p>
<p>P17</p> <p>【「7 具体的取組内容と成果指標」中，(1)生活機能の強化】</p>	<p>参加病院数が目標値を下回っておりますが，現状において，「休</p>

<p>ア 医療</p> <p>②広域救急医療体制の充実</p> <p>事業名：二次救急医療体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持 <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K P I（参加病院数）が目標値を下回ったとしても，二次救急の役割を支障なく果たしているとすれば評価が変わらないという解釈でよろしいか。 <p>また，他の事業も同様か。</p>	<p>日または夜間における入院治療を必要とする救急患者への医療の提供が図られる。」という事業効果は確保されている状況と考えられます。</p> <p>この状況を，目標値に対する評価としてどのように解釈するかは，現ビジョン最終年に全体を総括する際，他の事業と併せて懇談会の場でご意見を頂戴したいと考えております。</p>
<p>P18</p> <p>【「7 具体的取組内容と成果指標」中，（1）生活機能の強化】</p> <p>ア 医療</p> <p>②広域救急医療体制の充実</p> <p>事業名：医療情報共有化の推進</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度の事業費が急増しているのはなぜか。 	<p>2020年度の事業費の増加につきましては，地域医療連携システム更新費用が事業費として計上されているためとなります。</p>
<p>P28</p> <p>【「7 具体的取組内容と成果指標」中，（2）結びつきやネットワークの強化】</p> <p>ウ 地域内外の住民との交流・移住促進</p> <p>①圏域における国際化の推進</p> <p>事業名：留学生等受入体制の整備</p> <p>【意見等1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市以外には大学や専門学校が少ないので，南北海道の定住自 	<p>事業名につきましては，前ビジョン策定時は「留学生」として記載しておりましたが，平成29年度に「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」が施行され，留学生以外の外国人住民の増加が見込まれたことから，前ビジョン第5回変更（平成30年度）において，「留学生等」と記載を変更し，留学生</p>

<p>立圏として留学生だけを掲げること</p> <p>に疑問を感じる。13ページの外国人住民数の6割近くは技能実習生と特定技能1号であり、日本での定住は認められていないが、住民であることには違いなく、多くは水産加工業に従事しており、日本人の定住者を底辺で支えている。</p> <p>留学生だけではなく、技能実習生や特定技能1号が住みやすい環境を整えることを取り上げる方が、道南地域の共通課題となりえるのではないかと。以前にも申し上げたが、今後の懇談会の課題として考えていただきたい。</p> <p>【意見等2】</p> <p>昨年も話題になったが、指標の設定については、引き続き検討の余地がある。</p> <p>留学生だけではなく、中長期の滞在資格を持っている外国籍住民の数も指標になると興味深いと考える。</p> <p>その目標値を達成するためにどのような地域づくりが必要かという議論につながっていくと、新たな地平が開けてくるように感じる。</p>	<p>に限らず様々な在留資格の方に対する受入体制の整備を目指しております。</p> <p>今後においても急速な人口減少により、企業等における人手不足が深刻化し、技能実習生等をはじめとする様々な在留資格を持つ中長期滞在の外国人住民は増加傾向が続いていくと考えられております。</p> <p>外国人住民に対する受入体制については、令和元年度の懇談会および令和2年度の書面開催の際に頂戴したご意見を踏まえ、受入体制の整備として適切な事業名および指標を改めて検討する必要があると考えておりますが、これらの検討から設定には時間を要することから、現ビジョン最終年に総括し、今後の方向性と併せ検討させていただきたいと考えております。</p>
--	---